

1 企画調整業務

平成24年度における要研究問題の把握、研究課題の設定調整など研究連携課に係る企画関連業務は次のとおりである。

1-1 企画調整業務の概要

1 自然環境保全センター研究推進協議会の開催

- 開催月日 平成24年8月1日(火)
開催場所 自然環境保全センター レクチャールーム
参加者 14機関29名
協議事項
- ・平成23年度及び平成24年度試験研究課題実施状況について
 - ・平成23年度の成果発表
 - ① 丹沢大山の自然環境の保全と再生に関する研究開発ほか
 - ② 対照流域法による総合モニタリング

2 平成25年度試験研究課題の調整

平成25年度試験研究課題として関係各機関から提起された要試験研究問題の総数は延べ6件、提案機関数は3機関であった。それぞれの要研究問題について、自然環境保全センター研究推進協議会にて調整したところ、要研究問題への対応については、すでに研究課題として実施ないし実施中のもの3件、継続検討および調査指導対応のもの2件、現地対応のもの1件、実施不可のもの1件となった。

3 農林水産技術会議の開催

研究目標の設定、評価および結果の伝達、共同研究の推進等試験研究活動の充実を図るため、学識経験者等による農林水産技術会議を開催した。

開催月日	開催場所	検討課題名	委員
平成24年7月19日	自然環境保全センター レクチャールーム	シカと森林の一体的管理手法の開発	羽澄俊裕 齊藤 哲 服部俊明
平成25年3月19日	小田原合同庁舎 2D会議室	(1) 森林の水源かん養機能評価と情報提供に関する技術の開発「対照流域法によるモニタリング調査」の第1期5か年の実施状況について (2) 「対照流域法によるモニタリング調査」の推進上の課題及び今後の取り組みについて	玉井幸治 加賀谷隆 内海 規

4 研究推進支援研修の開催

プロジェクト研究等重点的な研究推進のため、外部有識者からの指導・助言を受けることにより研究員の研究能力向上を図る研修を実施した。

開催月日	開催場所	検討課題名	委員
平成 24 年 6 月 28 日	自然環境保全センター レクチャールーム	放射性物質による森林生態系への影響—栃木県の里山の事例から—	大久保達弘
平成 25 年 3 月 13 日	自然環境保全センター レクチャールーム	厄介なナラ枯れに備えて	所 雅彦

5 森林生態系効果把握手法検討ワークショップへの参加

平成 24 年度に水源環境保全課が実施した「水源環境保全・再生施策に係る森林水循環を考慮した森林生態系効果把握手法等検討業務」として開催された「森林生態系効果把握手法検討ワークショップ」にスタッフとして参加した。

(1) ワークショップの目的

「かながわ水源環境保全・再生施策」の取組成果を「良質な水の安定的確保」の視点で点検・評価する手法の一つとして、森林整備や土壌保全対策、ニホンジカの個体数管理など、森林の保全・再生の取組による森林生態系の効果把握手法を導入するにあたり、その手法の検討・整理及び提案を行うことを目的とする。

(2) 第 1 回ワークショップ

平成 24 年 10 月 28 日（日） 秋葉原 イー・アンド・イー ソリューションズ大会議室

①神奈川県での現状モニタリングにおける総合解析の可能性について

- ・森林の機能評価についての現状の取り組み
(対照流域法等による森林の水源かん養機能総合解析)
- ・森林管理とシカに係る総合解析について

②総合解析に向けた手法紹介

- ・森林や生物評価に関する解析法について
- ・環境の経済価値評価について

③森林生態系効果把握手法に関する討議

- ・論点 1 施策の総合評価のあり方
- ・論点 2 森林生態系把握効果のフレームワーク

(3) 第 2 回ワークショップ

平成 25 年 1 月 14 日（月） 秋葉原 イー・アンド・イー ソリューションズ大会議室

①森林における既存のモニタリングの実施状況

②第 1 回ワークショップを踏まえた森林生態系効果把握に関する考え方

③森林生態系効果把握に向けての講演

- ・全体スケールと地域スケールでは評価の方法が異なること等について
- ・水関連に限定した評価と生態系構成要素を広く組み込んだ評価について
- ・水源環境保全施策の目的効果把握の開発に向けてユーザーからの要望

④森林生態系効果把握のフレームワークに係る討議

(4) ワークショップ委員

浅枝 隆(埼玉大学大学院理工研究科 教授)、石川芳治(東京農工大学大学院農学研究院教授)、泉 桂子(都留文科大学社会科学部 准教授)、栗山浩一(京都大学大学院農学研究院教授)、木平勇吉(東京農工大学 名誉教授)、齊藤 哲(森林総合研究所植生生態研究領域室長)、鈴木 透(酪農学園大学農食環境学群環境共生学類 助教)、鈴木雅一(東京大学大学院農学生命科学研究科 教授)、高槻成紀(麻布大学獣医学部動物応用科学科 教授)、田中充(法政大学大学院政策科学研究科 教授)、中静 透(東北大学大学院生命科学研究科 教授)、中村太士(北海道大学大学院農学研究院 教授)、服部俊明(神奈川県森林組合連合会代表理事専務)、堀田紀文(筑波大学大学院生命環境科学研究科 准教授)、持田幸良(横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授)、吉本 敦(統計数理研究所数理・推論研究系 教授)